

# CHALLENGE

第1号 令和6年5月9日

今回から不定期ではありますが、先生方のお時間のあるときに気軽にお読みいただけるようなコラムを発行していきたいと思います。視覚障害のある子供たちが、学習や余暇、日常生活を有意義に送るために必要な力を養うためにどのような指導の工夫があるのか、気楽な気持ちで話し合うきっかけとなるような情報を盛り込みたいと思います。

## Ⅰ 研修コラム

### 【運動が好きになる『初めの一步』】

見えない見えにくい子供たちは、自然な形で体の動かし方を体得することが難しいため、安心安全な環境で、信頼できる大人や友達と楽しみながら様々な運動動作を体験することが大切だと言われています。そして、これはわたしの肌感覚になってしまいましたが、スポーツや運動の楽しさをあまり経験せずに大人になった視覚障害者は何かを頑張る気力や、周囲への興味をあまり示さない傾向があるように感じます。自身の子供の頃を振り返ると、両親や近所の子供たち、盲学校の先生方などと、スキーや水泳鬼ごっこなど様々な遊びの中で体を動かす楽しさを味わ

ったおかげで、現在でも余暇を充実させようという気持ちにつながっているように思います。

「それなあに?」、「どうして?」と質問し、いろいろなことに興味を示すことのできる心を育てることができかどうか、視覚障害のある子供たちの有意義な人生に繋がるのかもしれませんが。

## 2 書籍の紹介

### 『手で見る学習絵本「テルミ」について』

主な対象は小学校中学年の視覚障害児です。視覚障害児に、等しく読書の機会を体験し、本の面白さ、読書の楽しさを味わってもらいたいという願いから 1983 年に誕生したそうです。

また、墨字でも書かれているため晴眼者の子供たちと一緒に楽しめる学習絵本となっています。わたしもテルミを幼稚部年長児から購読していました。と言うより、当時は、触って楽しめる絵本があまりなかったので、両親が買いためていてくれたというのが本当のところですね。内容に興味を持ち始めたのは、小学校3年生くらいからだったように記憶しています。アニメのキャラクターや、様々な植物の特徴の違い、迷路やテルミの広場というお便りコーナーを楽しんでいました。